

ひろば

# 今、病院は 史上最大のピンチである

全国公的病院連盟 会長 邊見 公雄

昨春秋、国立大学病院長会議の幹部が悲痛な顔で臨時緊急記者会見を開いた。2023年度決算で42病院中32病院が赤字、総額は260億円。国立大学だから親方日の丸の放漫経営とお思ひの方もありかと。

それは今は昔の話。国立大学の独立行政法人化で運営費交付金は年ごとに減り続け、クラウドファンディングや産学協同でも追いつかず、今年度から貧しい学生のポケットにも手を入れ授業料アップを天下の東大も開始したのは皆様ご承知かと。日赤、済生会、JA厚生連などの公的病院も地方中心にほとんどが赤字のようである（全国公的病院連盟調査）。

大学の長男的稼ぎ手が附属病院。本来業務の教育・研究そっちのけで患者さんを1人でも多く診て、一つでも多くの検査・手術を施行し、大学に貢献して

いるのに大赤字。

これは、偏に大昔そのままの診療報酬制度に起因する。制度開始時は、病院は国立の結核療養所やハンセン病隔離の病院などで採算無視。日赤や済生会も恩賜の施設だった。それゆえに主たる対象は外来診療中心の内科診療所であった。病院、入院医療、手術や侵襲の高い検査などは目にも入っていなかったのである。

今や、40以上の国家資格を持つ職種が働くチーム医療など夢のまた夢であった。今回のコロナでは、エクモで多くの人命を救い、人工心肺、人工腎臓などの複雑な医療機器を扱う臨床工学技士や病診、病病、病薬、医学連携を担うMSW（医療ソーシャルワーカー）などの新しい方々への評価も全く不十分である。

人生100年時代を迎えるの

に最も貢献し、癌の早期発見・治療をするがんセンターなども国内どこにもない時代で、さらに薬価差が大きな収入源の時代でもあった。USAの友人外科医に手術の点数表（青本）を見せる。『Oh! crazy, you are foolish』。

とくに救急医療は、やればやるほど赤字、生命に関わるカテーテルや検査キット、高額薬剤はみな持ち出し。若手の多い分野なので人件費も嵩む。おまけに消費税も。15年以上救急医

療全国ナンバーワン評価の神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院も大赤字との悲鳴をお聴きした。

「ほんまに踏んだり蹴ったりやおまへんか。わてほんまによう言わんわ。』。オールドメデアにも少し責任があるのではと兵庫県で長く働いた小生は思い始めた。皆で早く手を打たないと悪貨(?)が良貨を駆逐してしまう恐れすら抱いている。心ある国民に窮状をぜひ知って欲しいと願っている。